



京都府京都市
株式会社青木光悦堂

審査員特別賞受賞

高齢者に笑顔を届ける新規事業に挑む

老舗和菓子屋での 新たな挑戦



当時の「株式会社青木光悦堂」の状況

市場環境の変化により、お菓子のニーズも減少してきているなか、「直接売ってほしい!」と要望があるほど評判が良い自社商品をベースに、直接お客様に届けるための事業展開を模索していました。



株式会社青木光悦堂
青木 隆明
さんの

決意

お客さんに、人気の
自社商品を直接届けたい!



龍谷大学 社会学部
河村 洋輝
さんの

熱意

ゼロから立ち上げる
プロジェクトで成長したい!

2人で作りだした成果



1. 事業が具現化し、新しい展開に繋がった
新規事業のアイデアを具現化するために、市場でのテストマーケティングをしっかりと行なったことで、次の新しい事業展開へ繋がりました。
2. 若者を受け入れ、育てていく会社へと転換
このプロジェクトを通して、若者の可能性を実感したことで、経験者だけでなく、新卒を受け入れ育てられる会社へと転換しました。
3. 社員の働き方や意識が変化した
可能性を信じて任せることで、社員に責任感が生まれ、自分で考え行動し結果を出す、というように社内の働き方や意識が変化しました。

1. 新たな事業の模索

明治25年に京都・山科で創業した和菓子のお菓子「青木光悦堂」社長の青木隆明さんは、お菓子和菓子と共に、喜びと信用を提供する「喜び創造企業」を理念に掲げ、煎餅やコンペイトウなど「故郷の銘菓」という独自ブランド菓子の卸売りをメインに事業展開しています。近年、和菓子のニーズが減少する中、「卸売りでなく、商品を直接売ってほしい!」というお客様からの要望もあり、青木さんは自社商品を直接お客様に届けたいと考えようになり、それを事業化していくために新しく時間をあり、そこで提供されているお菓子の質が良くないことや、高齢者が自由にお菓子を選べないという課題があることが分かりました。青木さんは、品数も多く、高齢者も評判の良い自社の商品をうまく活用できるのではと考えます。

しかし、それを事業化していくために新しく社員を割く余裕はありません。そこで出会ったのが長期型インターンシップ。青木さんは早速募集を開始します。

2. 挑戦のパートナー

説明会で、「100回失敗しても101回挑戦できる人に来て欲しい!」という青木さんの言葉に強く惹き付けられたのが、龍谷大学で社会学を学ぶ河村洋輝君でした。大学での知識や経験を活かし、自分の力を試したいと思って、ゼロから立ち上げるプロジェクトに魅力を感じ、同社での挑戦を決定します。青木さんと河村君、2人での新しい挑戦がスタートしたのです。



3. 仕事の原点を体感する

インターン2ヶ月目は、宅配システムの確立、そのための新しいメニュー開発。河村君はまず始めに、受注、発送、営業等の各部署を順に経験し、会社の流れを学びました。さらに、2000種類の商品を試食して、顧客のニーズやマーケティングの理解を深めていき、新規プロジェクトの地盤を一つ一つ築いていきました。

ゼロから立ち上げができる! 101回挑戦できる人!

インターン2ヶ月目は、宅配用のメニューが完成し、2人はいよいよ施設への営業を始めます。河村君は、営業を始めた途端になんと2件の受注を獲得。「これはいいける!」と自信を深めますが、その後2ヶ月間は全く契約が取れない状況に焦って新規顧客の獲得すればいい結果がでないと悪循環に陥ってしまいました。

そんなとき、1件目の契約施設にお菓子を届ける、利用者からこんな声がかげられます。「自分で買いたいから、あなたの名刺ちょうだい!」。何気ないやり取りのなかの一言で、河村君はハッとします。すぐの前に、自分たちがお菓子を必要としてくれている人がいる。新規顧客の獲得ばかりに目がいっていた河村君は、この一言で、「まずは目の前の皆さんの役に立つことが大事だ」ということに気付いたのです。そこから「新規訪問」から「施設の担当者との信頼関係づくり」へと営業スタイルが変わっていきます。



4. 若者の挑戦から会社の挑戦

そうやって地道な活動を続けていく中で、ある施設からは「紙製祭りにちなんだお菓子はいいですか?」と声をかけられるなど、具体的な要望も受けるようになってきました。まさに目の前のお客様の役に立てるようになっていきました。

インターン終了時には400件の施設を訪問、7施設と契約し6000食を販売するまでに事業は発展。青木さんは「すぐに儲かるわけではないが、事業の方向性と目処が見えたことは最大の成果」とこの事業性に確信を持ちます。

そして、もう一つの成果は組織の変化にあります。毎日誰よりも元気に挨拶をし、先が見えない状況の中でも一生懸命に挑戦を続けた河村君。そんな彼の姿を見ていた社員も奮起し、社内にはいい結果力が生まれたといえます。

120年の伝統を持つ和菓子屋が、宅配事業を立ち上げるといふこの新しいプロジェクトを通し、青木さんは外から入ってきた若者でも十分にコミットして成果をあげられる、これからも若者が活躍できる組織をつくっていきたくて意気込みます。老舗和菓子屋の新たな挑戦が今まさに始まったのです。



コーディネーター



坂野 充
(ほんの・みちる)

青木社長の事業構想と河村君の挑戦意欲を結びつけられたとき、私の仕事は終わっていたんだと思います。期間中にはサポートもいらず、素晴らしい挑戦をしてくれました。

NPO法人JAE
大阪市北区万寿町4-12
浪速ビル高層4F
Tel: 06-6131-3573
Fax: 06-6131-3487
Mail: info@jae.or.jp
http://www.jae.or.jp

受け入れ先



青木 隆明
(あおき・たかあき)
株式会社青木光悦堂
代表取締役

学生とは思えない慎重且つ冷静な判断でインターン期間中を通してエネルギーに事業に専念してくれました。

インターン生



河村 洋輝
(かわむら・ひろき)
龍谷大学 社会学部2年生
インターンシップ期間
2014年2月~2014年8月

初めての成約の際にもあった社員の方々からの拍手が心支えになり強い印象として残っています!